

第5回四万十町総合振興計画審議会 会議録

開催日時：令和3年10月20日（水）10：00～12：00

場 所：四万十町役場東庁舎1階大ホール

出席者（15名）：横山 順一、神田 修、横山 泰久、中島 克明、船村 覺、
三浦 ひろみ、森 雅順、岡村 健志、酒井 紀子、鈴木 幸代、
野村 宏、藤澤 久美子、八木 雅昭、山本 由美、田村 敬子
（敬称略）

欠席者（5名）：太田 祥一、泉 茂、尾崎 弘明、佐々木 将司、田邊 誠進
（敬称略）

事 務 局：四万十町役場企画課（3名）

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 総合振興計画後期基本計画（案）の答申とりまとめ
- 4 地方創生推進交付金事業の評価の報告
- 5 その他
- 6 閉会

■ 会議資料

- 1 会次第
- 2 委員名簿
- 3 第4回総合振興計画審議会におけるご意見等について
- 4 答申書（案）
- 5 地域再生計画評価調書（地方創生推進交付金事業効果検証調書）

■ 会議録

（事務局）

定刻となりましたので、第5回となります四万十町総合振興計画審議会を始めさせていただきます。開会にあたりまして、会長よりご挨拶をお願いします。

(八木会長)

皆さんおはようございます。今日は第5回の総合振興計画審議会にご出席いただきましてありがとうございます。新型コロナウイルスの方も、大分落ち着いてきたかなという感じもしますが、まだまだ県内でも出ておりますので、冬に向けて感染予防に気をつけていただきたいと思います。

さて、本日の会は後期基本計画の答申に向けての話し合いということになりますけれど、前回の会議の中で沢山の方々からいろいろご意見もいただきました。事務局でとりまとめもしていただいておりますので、その説明を受けながら答申に向けての話し合いを進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。人口減少につきましては、特に出生者数が増えないということもあり、9月末で今年は58人の出生という状況であります。このペースでいくと、80人を超えるかどうかという心配なところでございますけれど、そんな中で以前策定されております、まち・ひと・しごと創生総合戦略についても、この内容に合致するものがありますので、ぜひ今回の答申の中にも関連できるようにしたらどうか感じております。また、第2次の総合振興計画を策定した際に答申した内容が4点ありますけれど、その内容についてもより補強しながら、10年目の到達点目指してどうしていくかという議論をお願いいたします。限られた時間ではございますけれどよろしくお願いいたします、開会のご挨拶とさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございます。本日の会でございますが、事務局の方より前回の振り返りもかねまして資料のご説明をさせていただきます、答申内容について議論いただきました後に、7月6日に開催しました第1回の審議会にて評価いただきました地方創生推進交付金事業の評価結果についてご報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。それでは資料の説明をさせていただきます。〈説明省略〉

(八木会長)

事務局の方から前回の会の内容についての説明と皆さんのご意見についての回答がありました。この点についてのご質問等があれば出していただければと思います。また、合わせて、答申の内容についてもその点が加わっておりますので、ここまで書く必要があるかなと思うところもありますが、前期計画をどう推進されて後期計画にどうつなげていくかという展開でも良いと思いますが、皆様方のご意見をいただいて、後期計画の答申につなげていきたいと思っておりますのでご意見をお願いしたいと思います。

(酒井委員)

難しい物事を文章化していくということはとても大変だと思いますが、もう少しわくわ

くするような感じの言葉が入っているといいなと思いました。学校統合のことについては書けないというところがありました。子どもの点について言うと、答申の9つの内容の中にあまり子どもという文字がクローズアップされていなくて、他の県でいうと子どもの未来応援推進計画とかそういったことが、青森や宮崎や徳島などで出されているように思いますので、できたら未来とか子どもとかそういった10年先を見据えた事にフォーカスした言葉が入れば、もう少し前向きに読めるかなと感じました。

(八木会長)

表現の問題も含めてご意見がありましたが、後ほど文書整理していく中でお願いできたらと思います。まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも人口問題等がありますので、そういった点についても議論をお願いできたらと思います。他にご意見はありませんでしょうか。

(山本委員)

答申案の新型コロナウイルスの復興という表現ですが、感染症についてもまだ収束していませんので、ここの表現についてウィズコロナとの共存についてとかにしたらどうかと思います。

(八木会長)

お手元に、前回の会議で配られました2次の総合振興計画の答申内容が4点ございます。前期計画が終わろうとする中で、この4点についてはどうだったのかというところについて振り返って見なければならぬと思いますが、同じような表現で後期の内容について書かれている内容もありますので、実際にどう取り組んできて、今回後期の内容になったのか、具体的に私達に見えるものがなかったように思いますが、実際に生活されている中で、この総合振興計画が住民の中に浸透しているというふうになっておりますでしょうか。例えば、スローガンぐらいは町民に覚えていただくということは必要かなと思います。そのあたり皆様方はどうでしょうか。お構いなければ事務局で前期の答申内容であります4つの項目について具体的に取り組んできた内容について、お話いただければと思います。

(事務局)

4つの項目というところですが、まず1の町民への計画の周知・共有というところですが、この前期の計画がスタートしてから、改めて住民の皆さんに総合振興計画の説明を行うだとかそういったこととしておりません。そうしたところの必要性といったこともありますが、確かに町民の皆様の意識の中に総合振興計画の進捗について、日頃考える機会というのはないのではないかと思います。行政として、そういったことを考えるきっかけと

なるようなことはできていなかったと思いますので、その点につきましては反省をしているところです。

それから、2番目の協働のまちづくりの推進というところですが、まちづくりの新たな担い手の育成や活動支援を推進し、だれもが地域で安心して暮らせるよう、町民と行政との協働のまちづくりを推進していくということですが、具体的にこういった取り組みによってこう進めていますということが、今ぱっと思いつかないですが、住民自治や集落の活性化というところでいけば、集落活動センターの取り組みでありますとか限られたところではあります、徐々に進めていっているというところではあります、日頃の自治活動というところでは、自治会に任せられているというふうに思っています。そういったところについても、今後どういった動きをつけていけて、具体的にどういった方が活動主体となって動いていただけるのか等の検討もしないといけないところだと思いますが、そこが実際のところまどうまく動いていないのかなと思っています。

3番目の地方創生の推進ということころですが、事業としてはご説明をさせていただいておりますとおり、四万十町の情報発信をしていくとか、移住定住を促進していくとか、観光振興により交流人口や関係人口の増加を図っていくとか、また何より四万十町の将来を担う人材を育成していくということが大事じゃないかということで、3年間国の補助金をいただいて取り組んできたところがございます。

最後の振興管理の強化と行政評価による着実な計画の推進というところがございますが、自分の方も手探りでやっているところがございます、本当に上手にPDCAが回しているかといわれれば、まだまどうまく回せていないのではと感じております。今後もどういった形でやっていけばよいか試行錯誤しながら進めてまいりたいと思いますのでよろしくをお願いします。

(八木会長)

という説明でしたが、全体的にはなかなかうまく進んでいないという印象で聞いたのですが、田村委員どうでしょうか感想で結構ですが。

(田村委員)

平成28年11月に出された答申に対してのこれまでの取り組みというところですが、事務局よりご説明がありましたところですが、2番、3番については一部強化して取り組んだところがあるということですが、1番の計画の周知でありますとか、4番の振興管理の強化というところでは、まだ十分にできていないのではないかと話があったのですけれど、そここのところはとても残念かなと思います。また、1つ目と4つ目というのはバラバラではなくてセットで考えた方がいいのではないかと思います。やっぱり進捗管理というのができていないということになると、なかなか町民の方にお伝えすることができないということになりますし、そこを定期的にやっていくということがとても大事な

ことだと思っています。今こういう計画があつて、それぞれこんな感じで進んでいて、というところを広報なり、公聴会だとかフォーラムのような形で2年に1回はやっていくとか、そういった形で皆さんに意見をいただく場があるといいのではないかと思います。そのために、各計画の施策ごとに進捗を確認する指標がたてられていて、現況値と目標値というのがありますので、今どうなっているのかということや年に1回はチェックしていくとか、ということをやっていくといいのではないかと思います。その前に説明がありました第4回のご意見についてということでまとめてくださっていたペーパーの2ページ目の6番ですが、前期計画のKPIの実績がちょっと出せないのかというご質問に対してまだちょっとできていませんというお答えだったわけですが、途中段階でもいいですし、概数でもいいので、これがないと次の計画にいけないのではないかなと私も思いますので、それが今どうなっているのかというのを把握して、現状をお知らせしていくということはもう少しされたいかなと思います。平成28年の答申で示されている進捗管理のところとか、計画への周知のところとか、まだできていないところについては、ぜひ今回お願いという形で言葉は考えないといけないと思いますが、そういう趣旨のことは載せていたらどうかと思います。それと、今回の案についてですけれど、丁寧に皆さんの意見について出させていただいておりますが、もう少しまとめられるところもあると思いますので、今文案になっているので、このまま出してしまうのではないかというイメージにもとれてしまいますので、これらの項目をもう少し整理して出しますよという感じで検討いただけたらどうかと思います。

(事務局)

すいません補足ですが、先ほどKPIがうまく回せていないと言ったのですが、振興計画のKPIになっている数値については、住民アンケートをとらなくてはいけないものについては把握ができていないわけですが、令和2年度の実績値について把握できるものについては全て把握をしております。それから、KPIを回すにあたって、施策ヒアリングというものを毎年7月に各課と1か月間ぐらいの間で実施しております。その時には、各事務事業がどういうふうに進められていて、こんな新しい事業が必要ではないかとか、この事業はもう必要ではないのではないかとか、そういったやり取りについては執行部も入って毎年行っており、見直しを実施しているところです。事務事業ごとのKPIというのも計画書にはのっておりますが、設定しておりますして、それについても各課の職員に確認をいただいているところです。そういうようなことは実施しておりますが、先ほど申し上げましたKPIがうまく回っているかどうかという点について、まだうまくできていないのではないかと申し上げたのは、この振興計画の外部評価については、総合振興計画審議会の委員さんをお願いしてやっていたところですが、評価の仕方であるとかそういうところを自問自答しながらやっているところもございましたので、そういう言い方をさせていただきます。

(八木会長)

計画を進めることは大事なことですけれど、そこには行政の計画と言いつつも、行政だけが進めるではなくて、住民が関心をもって一緒に進めていくというスタンスが必要だと思いますが、前期の答申を生かして、後期の計画をより推進していく方法というところについて岡村委員さんアドバイスがありましたらお願いします。

(岡村委員)

すぐに思いつきませんが、全体的な印象として四万十町さんの総合振興計画の評価や策定のプロセスについては、他の自治体さんと比べても非常に丁寧にやられている印象を持っておりますし、そういったご丁寧なコミュニケーションを事務局も我々にとっていただいている印象を持っています。まずそれがありまして、住民1人1人までにはいかないとしても、委員と役場さんとのそういったコミュニケーションは非常に丁寧ではないかなということが1点です。それと、これから町民にどれぐらい計画の内容を浸透させていくかということですが、難しいですね。難しいというのは、町民が計画そのものに興味を持つまでにはいくつかのステップがあるのではないかなという気もいたします。例えば、1つ1つのプロジェクトや取り組みに関する興味はあると思います。そういった接点からうまくつながっていったら、計画に辿りついてもらうとか、広報誌をご覧いただいているのであれば、広報誌の中で興味ある記事から総合振興計画に辿りついてもらうとか、そういえば総合振興計画って何をやってたのだっけとか、そういった気付きのところかなという気がいたしました。あとは、愚直なお話でいいますと、協働の取り組みというところをどこまでやれるかということではありますが、やれてないわけではないと思いますので、どこが足りていないのかということをもう1回我々が見直すということかなという気がしました。

(八木会長)

ありがとうございました。私も話を聞きながら、まちづくり基本条例のことが実は頭に浮かんだのですが、情報の公開とか共有そして参画・協働、これらは全てこの4つの中に入っているのかなと感じるわけです。住民が参画できるような施策にしていく、計画をつくり上げていく、そういう行動ができる場面を作っていないと、絵に描いた餅で終わってしまいやせんかなと感じながら聞いたわけですが、皆様のお考えもお聞かせいただければと思いますが。

(酒井委員)

お伺いしたいことも入っているのですが、四万十町だけの問題ではないのですが、官僚が物事を決めて、生活に追われている住民がそれを横目で見ていただけというのを何かの本で見たことがあります、一番最初の会の時に船村委員さんがおっしゃっていたことが

私はすごく印象的で、こういったプロといいますか、仕事としてやってらっしゃる方に対して、生活だけでいっぱい自分達が意見を言うのはすごく難しい仕事だと言われていたことをすごく覚えているのですが、普通に生活をしていたら、ここまで辿りつくまでに相当時間もおかかると思うのです。その場合、どうして海外ではアプローチがしやすくなっているのかということで本に書かれていた内容によると、海外では住民と行政の間に NGO がきちんと入っていて、ワンステップのハードルを下げてくださいということで、行政と住民のつながりを担っているということで、行政の施策に反映されているというのを見たのですが、それが海外と日本の違いかなということでした。そういうような仕組みができるのであれば、四万十町なりにそういった団体をつくるといいますか、本来は住民の中からそういった団体が出来上がるのが普通だと思いますが、住民の方がやろうということで、そこまで大きくするというのは、なかなか難しいことだと思いますので、そういう団体をつくるという方法もあるのかなと聞いていて思いました。

(八木会長)

非常に中身が濃いといいますか、難しい話になりますが、やはり住民の理解や自主的な取り組みが進んでいかないと、このままでは難しいのかなと思います。やはりそこには、行政も入れてハードルを下げ、住民が関わりやすいようなそういう場面づくりができる条件を整備していく必要があると思いますが、皆様方のご意見がありましたらお願いします。

(岡村委員)

先ほどのお話で少し考えさせられたところですが、住民との協働を進めていこうという事は多分みんなそうしようと世界中どこでも言うのだらうなと思います。それで、日本はなんとなく遅れているねという話もよく聞く話で、本当なのかなということで実感もあまりなく、ただ思うのは住民との協働を進めるときに、個人個人が参画するだけでなく、やはり団体が必要だと思います。活動するボランティア団体と言っているのか分かりませんが、例えば地区会もそうだと思いますが、それは自分が住んでいる場所だから役職があつてとか、そこに役割があつてする活動ですけれど、もう一方でミッション型のものもあると思いますが、例えば子育ての何かをすとか、ご高齢の方の何かを支援すとか、そういう団体さんの活動が活発になっていくことが、住民との協働につながっていくのではないかと思います。そういうアプローチで考えた場合に、我々として何ができるかということ、団体さんへの支援ということではないかと思います。団体さんもやはり、ボランティア団体というものが立ち上がった時によく聞くのが、人手が足りていないとか、活動の場であるとか、資金とかいうこともあるので、そういった団体の中間支援的なものをどこかでサポートするというのが具体的な取り組みとしては1つあるのかなと思います。そういった社会的であるとか文化的なボランティアサークルを支援するという自治体さんも確か

にあるのかなと思います。

(八木会長)

他にご意見はありませんか。

(神田委員)

2点あるのですが、岡村委員さんがおっしゃられたように、中間支援組織への支援という部分も必要だなと思っているのですが、今ある組織を使っていくということが一番の近道だなということがあると思います。四万十町さんの場合は、ケーブルテレビさんがありますので、住民の皆さんも非常によくご視聴されていて、うちなんかもケーブルテレビに取り上げていただいた時にはよく見たよと声を掛けていただけますので、そういったところを活用して、ケーブルテレビさんと連絡を密にとつていただいて、出したい情報を工夫して、しっかりと出していくということが今すぐにでもできることじゃないかなと思います。それで、意見をどう吸い上げていくかという点については、今後の課題かなと思います。

それと、2点目は自分がこだわっている減少社会に向けてどうするかということで、事務局よりご説明がありましたように、一方で人口を増やすように考えていて、一方で減っていくからどうするか考えるということは、確かに矛盾することではあるのですけれど、ただこの人口問題への対策自体が減少を前提としてつくっているものですよ。その減少を遅らせるということをつくっているものなので、そこは矛盾したものではないかと思いません。なので、この文面にどこまで書き込むかということはまた別のこととして、人口減少を遅らせる中で数が減っていった時に、四万十町はそこに丁寧な施策を展開していきますよということをぜひ出していただきたいと思います。それがやっぱり住民の安心・安全につながっていくことだと思います。ちょっと書き方が難しいと思いますが、なんとか書き込んでいただけないかなと思います。例えば、学校統合の問題もそうですよね、子どもの数が減っていくことは決まっているので、統合ありきで話を進めていくのか、統合するのにかしないのかを検討して、きちんと話を進めていくのかということは全然違うので、全体としてそこを数ではなくて、小さくなくてもきちんと考えますよという姿勢をぜひ出していただきたいなというふうに思っています。

(三浦委員)

自分も商売をしておりまして、町民の1人ではありますが、みんな友達同士とか気のおける中では話もするのですけれど、やっぱり基本は役場のしてくれる仕事を信頼しているということが大きいと思うので、任せておいたら大丈夫であろうと皆さん考えていると思います。それで、この基本計画ということで、きれいに書かれているのですが、役場の方もしっかりやっていってくれるだろうということで、それほど注目してということはないか

もしもかもしれませんが、ケーブルテレビもよく見ておりますし、ある意味何かあったら町民の皆様もすごく関心を持って、四万十町は大丈夫かとか意見もいろいろ出てくると思います。やっぱり皆さん普段は声を出さないのですけれど、何かあったら声をあげると思います。自分もそうですけど、普段は自分の身の回りのことが中心で、自分の生活のことで1日が終わってしまうと思いますので、もうちょっとぎっくばらんに、ケーブルテレビで各課の紹介もされていると思いますが、こんな事があなたの生活のこんなことに関係しているのですよとか、アプローチの仕方を変えたら、もっとみんな関心を持ったりするかなと思いました。

(森委員)

ケーブルテレビの森です。先程からケーブルテレビのところでいろいろお話が出ておりました、こちらとしましても、情報を伝えるという非常に重要な役目があります。その中で、委員さんの中からもケーブルテレビの話が出たということは、本当に関心度が高いということで、私共もこれから先がんばってやっていかないといけないと思うところです。この答申案のところですが、この中で前々回の会の中で、この四万十町の安全・安心の確保というところで申し上げたことでしたが、この四万十町の中でいかに災害があった後にいち早く復旧させることができるかということを経ケーブルテレビの方でも一番に考えているところです。災害があった時に、町民の皆様にかうしたら安全ですよとか、少しでも町民の皆様を不安を取り除くことをいち早くできることが通信ということになります。これをどう考えていくかということをおもっております。この9項目については、日々平常な時にやれることが主に載ってあると思います。いかに大災害が起きた時にいち早く復旧してというところも施策の一つに基本計画のところに加えていただければと思います。

(八木会長)

ありがとうございます。先月の17日の豪雨ですけれども、床下浸水が50世帯、床上浸水が9世帯ということで聞いているわけですが、海岸部を中心に被害が出たということでしたが、そこらあたりの行政との情報共有というのはどうでしたか。

(船村副会長)

興津の方で、床上浸水もありましたが、普段そういった災害があった場合につきまして、興津の場合は地元で協力し合って対処しております、あまり行政の方にどうということは言いませんが、今回の場合は家もそうですけれど、ハウスの方もものすごく被害がありました。議員さんをはじめ、行政の方と3.4回現地の巡回も行いまして、急いでいるところから地域の建設業に頼んで、手を尽くしていただいているところです。家屋に対しましては、興津では2件の被害があったとの報告を受けています。

(八木会長)

ありがとうございました。私も志和の方に2日間ぐらい行ったのですが、こんなこと初めてやったという方がほとんどでした。土砂が家屋に入ったりということで、もちろん農業の災害もあったのですが、谷川なんかがかなりの被害を受けておったということで、この総合振興計画の中でも災害のことについて若干触れておりますけれど、毎年のように全国各地で災害が発生するということになったら、その対策についてもある程度後期の中で入れてもらったという気もしたところです。

(中島委員)

話の流れが防災の事になっていますが、話を元に戻すようで申し訳ないですが、先ほど会長さんがこの総合振興計画が住民に浸透しているのであろうかという話の中で、せめてスローガンでも浸透していればというようなお話があったかと思います。そのことが心に残っていて考えていたのですが、七里小学校では子どもに四万十町、そして七里地区の事を好きになってほしいということで、教科の学習以外に、食育・環境・福祉・防災について学習をしています。子ども達の発達段階や学年に応じてカリキュラムを組んでやっているのですが、ここにある「山・川・海 自然が 人が元気です 四万十町」というこのスローガンは私達が取り組んでいるこの取り組みをコンパクトに表現しており、とても素敵なスローガンだなと思いました。でも、このスローガンをあまり目にするのがなくて、学校でもこの取り組みの中で、子ども達に伝えることもなく反省しているところですが、この素敵なスローガンをもっといろんなところでアピールできたらいいのではないかなと思います。ちょっとチープな発想かも知れませんが、ポスターで知らせるとか、ケーブルさんをお願いして、何らかの形で放送していただくとか、そういうふうにすると、この四万十町総合振興計画後期基本計画という非常に性質柄固いネーミングですが、スローガンが浸透していけば、こういう四万十町にするための計画よと言ったら、あのことか分かるように、大切な計画自体が住民の方の身近なものになるのではないかなと感じました。

(八木会長)

子どもからお年寄りまで分かり易い表現の中で、まちづくりを考えていくというご提案だったと思います。他にご意見はありませんか。

(横山(順一)委員)

答申案のところですが、一番目にコロナウイルスのことが書かれておりまして、このままでもすごく良いとは思いますが、今後想定されることで自分が気掛かりなことは、感染者に対してどう対応するかということをやっと不安に思っているところがあります。コロナの感染者に対しては、取り組みを町の方でもやられていると思います。感染者

に対しては、県が行っているということで、感染者の情報というのは、町の方にもなかなか降りてこないということが言われておりますが、今は感染者が減少しておりますが、これがまた増加した場合に、自宅療養者が増えてくると、県だけではなかなか対応できなくなるのではないかと推測するわけですが、そういった場合に市町村に対応とか対策が降りてくるのではないかとということも考えられると思います。その場合に県と連携して、町の保健師さんもそういった対応に関わっていくということも想像されるのですが、町もこういった支援ができますよとか町としての役割と支援の準備なども考えて、計画しておいていただければ迅速に対応できるのではと思います。

あと、2行目のところの引き続きというところを、進んだとか、新たなとか感染対策がもっと進んでいくような表現に変えていただければと思います。

(野村委員)

今横山委員が言われたところとちょっと関連するのですが、コロナの感染者は県内でも2人とか8人とか結構変動しております。私が思うに、感染者が50人とか100人出るときは完全に行政の責任だと思うのですが、2人とかそういう時は県民個々の注意が大事だと思います。というのも実感として、今外を歩いている高齢者の方も、ほぼ100%マスクをしておりません。スーパーとかその辺ではしているのですが、外を散歩している方とかはしていないように思います。やはり、コロナのワクチン接種を2回したから大丈夫だろうという過信があるのではないかと思います。町としても、こういったことについて、広報していくべきではないかと思います。例えば、区長さんから住民の方に伝えてもらうとか、個々の方に注意を喚起することが大切だと思います。第6波を起こさないために絶対必要だと思います。

(八木会長)

他にご意見はありませんでしょうか。今日は、後期の答申についての意見出しの場ということで最後にはなります。沢山意見が出されましたので、あとは事務局の方で文面等の整理をしていただきますけれど、今回案が出されておりますけれど、結構項目が多いわけです。果たして私もここまで書きこむ必要があるかなということも感じますけれど、今の後期に向けて重要な項目については書いていただくと、そして前回の答申で出た内容については補強しながら、この答申をつくっていただくということで、事務局の方に整理をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

はい、それではそのようにさせていただきますのでよろしく願いいたします。事務局の方で答申案ができた時点でスケジュールがどのようになりますでしょうか。

(事務局)

はい、次回の会議が11月17日に設定をさせていただいておりますが、パブリックコ

メントの方を11月15日から予定をしております。その関係もありまして、答申は15日より前にいただけたらと思っておりますので、会議の方もそれより前に行く必要があるかと思えます。

(船村副会長)

答申について、会長名で出すということなので、会長を交えて答申案を策定するという作業はできないのですか。

(事務局)

会長と相談させていただきまして、答申の整理をさせていただきたいと思いますが、その後皆様の了承につきましては、会議を開くか、文書にて了承をいただくかということになるかと思いますが、そのあたりはどうでしょうか。

(八木会長)

17日の会は前倒しできないでしょうか。

(船村副会長)

前倒しして、答申案の確認のほか他にできる項目があれば良いと思いますが。

(事務局)

日程の方を調整させていただければと思います。

(八木会長)

答申案ができましたら、最終的には皆様にお諮りする時間は取りたいと思っておりますので、そのあたりは事務局と調整させていただきたいと思えます。このあたりの進め方について、ご意見はありませんか。はい、それではそのような形で進めさせていただきますのでよろしくお願ひします。

続いて、4番目の地方創生推進交付金の評価の報告について事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

地域再生計画評価調書という資料があると思えますが、そちらをご覧ください。7月6日の審議会を出している資料と同じ資料となりますが、ご出席いただきまして委員の皆様に見ていただいとと思えますが、令和2年度に国の交付金を活用しまして、まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけられている事業について、地方創生推進交付金事業として実施しております。その評価を行っていただいとと思えますが、その結果について最後のペ

ージに載せさせていただいておりますが、17名の委員さんのうち、地方創生に非常に効果的であった3名、地方創生に相当程度効果があった11名、地方創生に一部効果は見られたが、全体的に取り組み内容の改善が必要3名となっております。また、いただきましたご意見につきましても、概ね順調に進捗されているといったご意見や、中長期的にじっくり取り組む課題ばかりなので、短年の効果だけにとられずに、じっくりと成果につながる取組を続けてほしいとか、まちのPRが非常に良くできている、引き続き上手にイメージを打ち出してもらえればなど事務局としてはありがたいご意見も多くいただきましたのでご報告をさせていただきます。

また、今年度もこれらの事業を引き続き実施しているわけですが、今年度の地方創生推進交付金事業につきましては四万十川を中心に据えて、体験型観光を実施していくとかそういう取り組みで事業採択をしていただいております。コロナの関係で、中止となった事業も沢山ありますけれど、来年度にまた評価をいただけるように準備もしてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(八木会長)

はい、ありがとうございました。外部評価のご報告でございましたが、何かご質問などありませんでしょうか。また、来年度も評価の方があるということでございますので、よろしく願いいたします。本日予定しておりました件については以上となりますが、委員さん又は事務局から何かございますか。

(事務局)

すみません、総合振興計画の策定のスケジュールでございますが、当初12月議会に上程するように進めておりましたが、3月議会に変更となりましたのでよろしくお願いいたします。

(八木会長)

他にございませんか。それでは閉会のご挨拶を副会長にお願いします。

(船村副会長)

どうも皆さん長時間にわたりご意見いただきありがとうございました。会長からも冒頭コロナのことについて挨拶がありましたが、県内もある程度減少傾向となっておりますが、今後とも油断をせずに個々に気をつけていただきたいと思います。また、急に冬が来たように寒くなりましたので、くれぐれも風邪なども含めた健康管理をしていただきまして、また次の会でお会いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

— 閉会 —